



報道発表資料

令和6年8月9日

人間環境大学環境科学部 講師 岡久雄二

豊橋総合動植物公園 園長 高見一利

長野アカモズ保全研究グループ 代表 松宮裕秋

信州大学理学部 助教 笠原里恵

一般社団法人野生生物生息域外保全センター 代表理事 本田直也

国内希少種アカモズの保全活動の経過について ～2年連続、世界2例目の成功～

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室では、豊橋総合動植物公園、長野アカモズ保全研究グループ、信州大学理学部、一般社団法人野生生物生息域外保全センター等と共同で、絶滅危惧種アカモズの保全を目指した取り組みを行っています。

2年目となる本年は、長野県内におけるモニタリングにより 41つがいのアカモズを確認し、捕食などによって親鳥が放棄した巣に残された19卵を保護し、豊橋総合動植物公園にて人工孵卵・人工育雛することにより、11羽を育成することに成功しました。世界で唯一、本研究グループがアカモズの育成に成功しており、今回の成功は2023年に続き2例目です。2年連続の人工孵卵・人工育雛の成功は、絶滅の危機に瀕しているアカモズの保全に対して極めて重要な成果と言えます。

今後は、生息域外保全の一層の強化によりアカモズの減少を抑制し、飼育下での繁殖と将来的な野生復帰を目指すことにより、アカモズの保全を推進していきます。



今年の人工育雛で育ったアカモズ

お問い合わせ先

- ・人間環境大学環境科学部フィールド生態学科 講師 岡久雄二 Tel 0564-48-7811(代)
- ・豊橋総合動植物公園 専門員 吉川、主査 木谷 Tel 0532-41-2555
- ・信州大学理学部 助教 笠原里恵 Tel 0266-52-1955



報道発表資料

令和6年8月9日

(1) 経緯

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室では、以前よりトキやシロハラサギ等の絶滅危惧種の生息域外保全と野生復帰について専門的見地からの分析と提言を行ってきました。

2023年より、当研究室が中心となって、環境省信越自然環境事務所、豊橋総合動植物公園、長野アカモズ保全研究グループ、(社)野生生物生息域外保全センター、森林総合研究所、国立環境研究所、信州大学、北海道大学地球環境科学研究院等が連携した長野アカモズ保全ワーキンググループおよびアカモズ生息域外保全ワーキンググループを組織し、国内希少野生動植物種アカモズの安定的な存続を目指し、生息域内における巢の保護と救護、緊急避難的措置としての生息域外保全、越冬地および渡り中継地での情報収集、細胞の保存等の取組み等を開始いたしました。

(2) 2024年の実施内容

- ・長野県内におけるアカモズの分布と個体数、繁殖状況のモニタリング
- ・アカモズの繁殖地におけるセンサーカメラを用いた捕食者の分布調査
- ・アカモズの繁殖地における餌昆虫の定量調査
- ・アカモズの巣への捕食者ガードの設置
- ・捕食等により放棄された巣に残された19卵の保護、豊橋総合動植物公園での13羽の孵化および11羽の育成
- ・豊橋総合動植物公園における野生復帰に向けたアカモズの順化訓練の試験実施
- ・豊橋総合動植物公園におけるアカモズ1個体の一般公開
- ・豊橋総合動植物公園から一般社団法人野生生物生息域外保全センター（北海道恵庭市）へのアカモズ2個体の移送および複数施設での分散飼育の開始
- ・アカモズの保護に関する地域住民への普及啓発

(3) 今後の予定

現在飼育している個体をファウンダー（始祖個体）として飼育下での繁殖を実施することで、飼育個体群を確保し、アカモズの短期的な絶滅の回避を目指します。また、生息域内での保全活動をさらに強化することでアカモズを増加に向かわせることを試みます。将来的には、飼育下で生まれた個体を野生復帰させること等により、アカモズの野生個体群が安定的に存続可能な状況に達することを目指します。



報道発表資料

令和6年8月9日

参考

アカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) : アカモズはアジアに広く生息しているが、本亜種は日本のみで繁殖し東南アジアで越冬する渡り鳥であり、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類に選定され、種の保存法において国内希少野生動植物種に指定されている。本州個体群については、2022年時点で45つがいのみが確認されており、2026年にも地域絶滅することが予測され、本種の絶滅を回避するためには、生息域内保全を進めると同時に、生息域外保全を推進することが必要とされている。

○日本国内におけるアカモズの飼育個体数 (2024年8月9日時点)

豊橋総合動植物公園	14羽
野生生物生息域外保全センター	2羽
合計	16羽

○長野県におけるアカモズの繁殖つがい数 (繁殖モニタリングにおける確認数)

2022年	45つがい
2023年	39つがい
2024年	41つがい

- ・本事業は、JSPS 科研費 (24K08959)、環境省生物多様性保全推進交付金、日本動物園水族館協会野生動物保護募金、東京動物園協会野生生物保全基金及びサントリー世界愛鳥基金の助成及び人間環境大学奨学寄附金を用いて実施しています。
- ・採卵や飼育等は、環境省による許認可のもと、関係法令を遵守して実施しています。
- ・繁殖地におけるアカモズの取材は、本種の絶滅を招く要因となる恐れがあります。そのため、本種の保護の観点から、日本国内の生息地については非公開とさせていただきます。



報道発表資料

令和6年8月9日

写真・動画

※動画及び写真の著作権は人間環境大学岡久研究室および豊橋総合動植物公園が有します。報道目的に限り、写真および動画をご提供させていただきますので個別にお問い合わせください。



検卵の様子



人工孵卵の様子



人工育雛の様子



人工育雛の様子



巣立った雛



2023年に育成した個体